

「知る」・「つながる」被災者支援セミナー

期 日 令和6年5月31日(金)
会 場 福岡県吉塚合同庁舎8階 803会議室

主 催:福岡県(コラボステーション福岡)
企画・運営:社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
協 力:災害支援ふくおか広域ネットワーク(Fネット)

日 程 表

時間	内容	講師等	頁
10 : 30～ 10 : 35	●開会	福岡県	
10 : 35～ 11 : 30	●基調講演 「多様な主体が連携した 災害ボランティア活動について」	福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター	7
11:30～ 12:00	●災害中間支援組織の活動紹介 「被災者支援×NPO・ボランティア団体」	災害支援ふくおか広域ネットワーク 幹事 松田 光司 氏	22
12 : 00～ 13 : 00	昼食休憩		
13 : 00～ 14 : 30	●パネルディスカッション 「行政×社協×NPO」	【パネリスト】 朝倉市 朝倉市社会福祉協議会 一般社団法人 Camp 【進行】 福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター	38
14 : 30～ 14 : 50	休憩		
14 : 50～ 16 : 30	●ワークショップ	【進行】 福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター 【協力】 災害支援ふくおか広域ネットワーク	
16 : 30～	●閉会		

多様な主体が連携した 災害ボランティア活動について

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

◆今日のテーマ◆

- 1 近年の災害発生状況と被災者の困りごと
- 2 被災者を支援するボランティア活動
～社会福祉協議会の役割と災害ボランティアセンター～
- 3 多様な主体が連携した
被災者支援活動の必要性

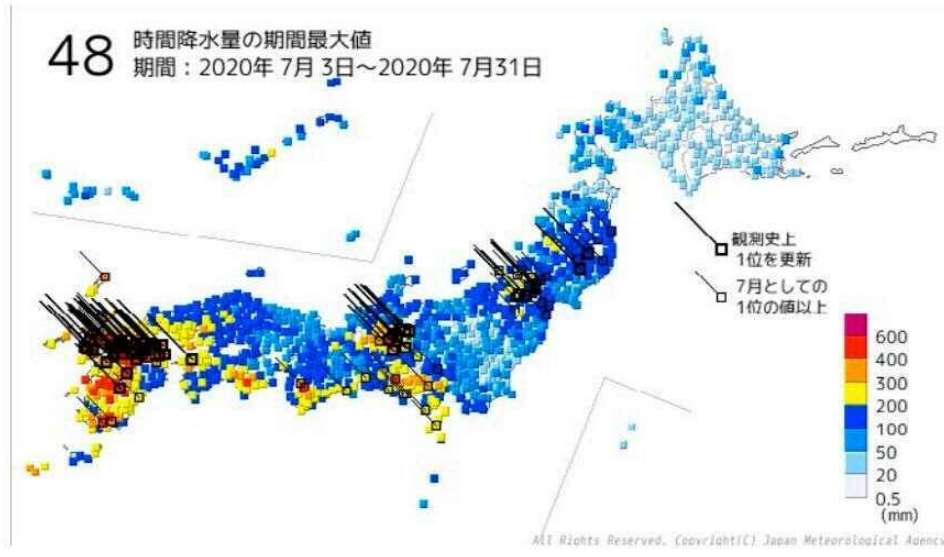
福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

1 近年の災害発生状況と 被災者の困りごと

令和2年に発生した主な災害



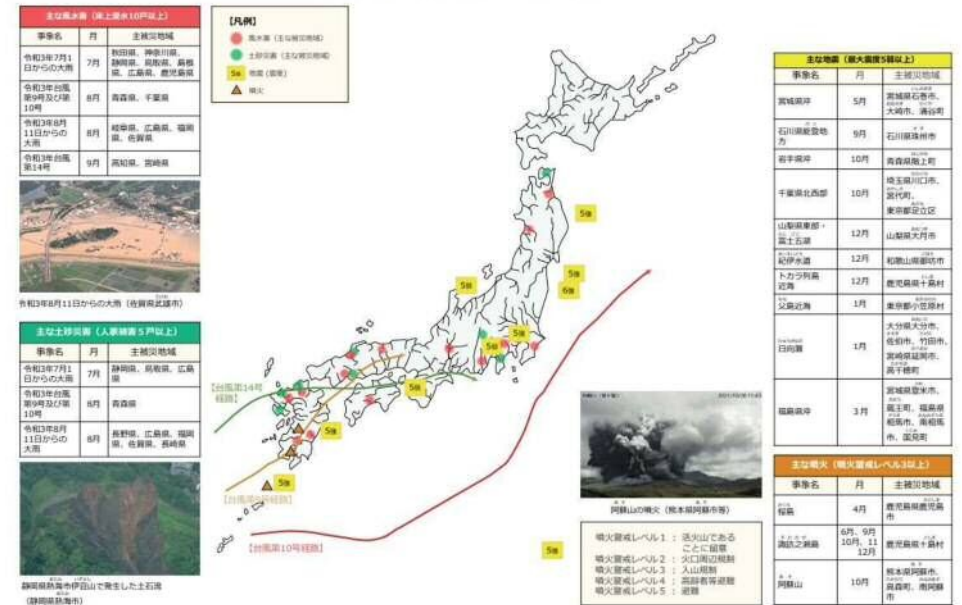
48時間降水量の期間最大値 (7月3日～31日)



令和3年版 防災白書

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

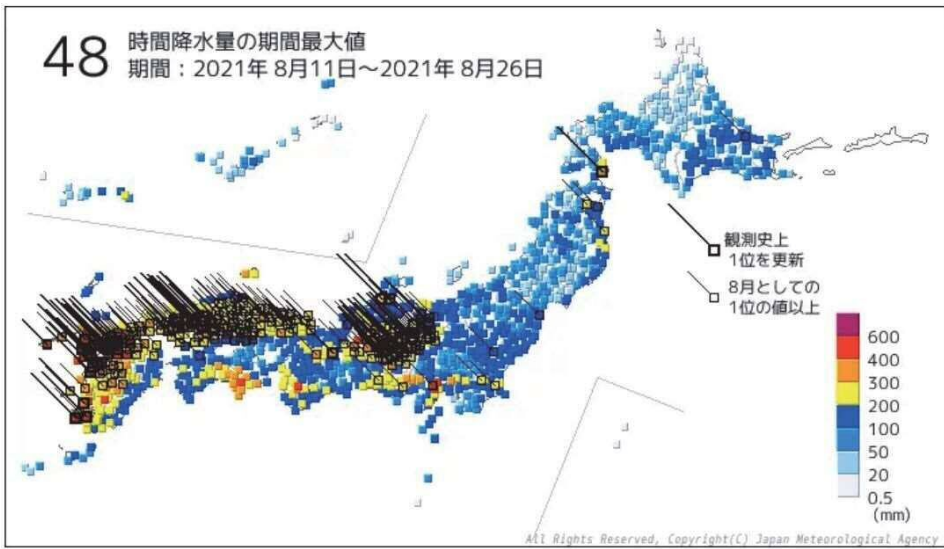
令和3年度に発生した主な災害



令和4年版 防災白書

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

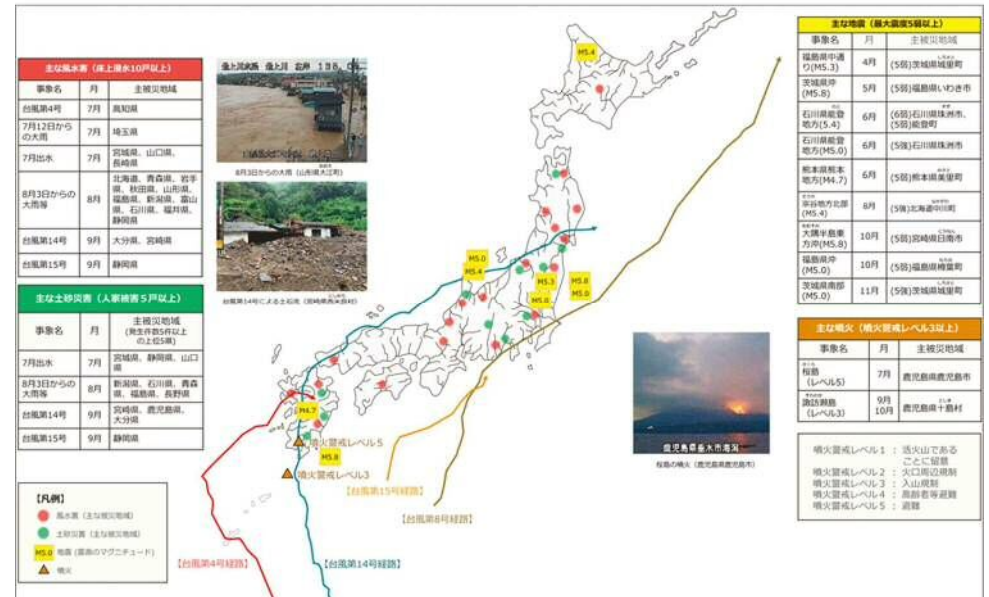
48時間降水量の期間最大値 (令和3年8月11日～8月26日)



令和4年版 防災白書

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

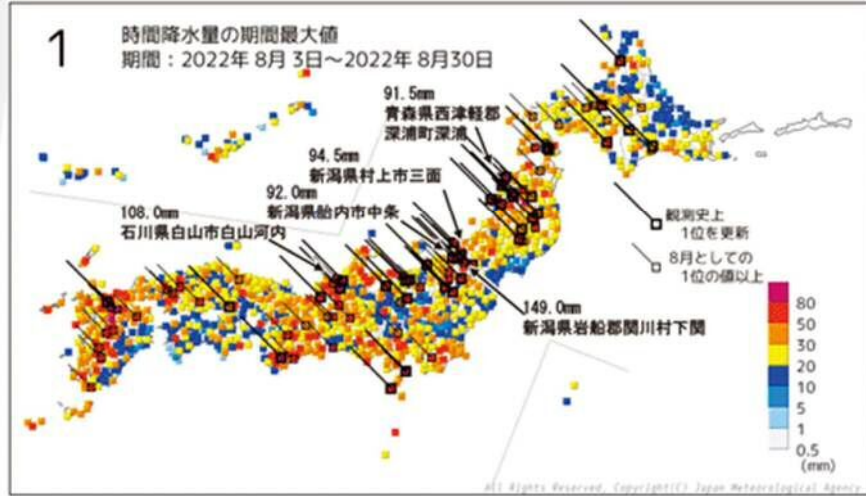
令和4年度に発生した主な災害



令和5年版 防災白書

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

1時間降水量の期間最大値（8月3日～8月30日）



出典：気象庁資料

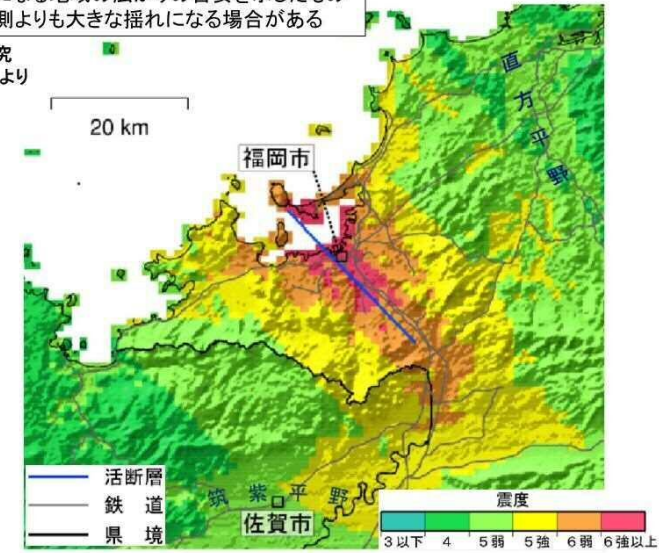
令和5年版 防災白書

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

警固断層帯南東部(M7.2程度)の地震による予測震度分布

- ・強い揺れになる地域の広がりを目安を示したもので
- ・実際は予測よりも大きな揺れになる場合がある

地震調査研究
推進本部HPより

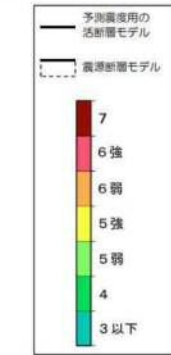
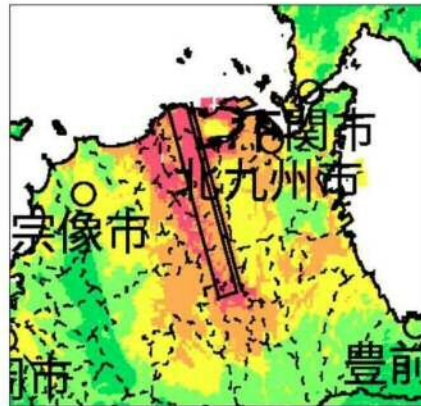


「令和5年度防災気象連絡会資料」（福岡管区気象台）

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

福知山断層の地震(M7.2程度)による予測震度分布（簡便法）

強い揺れになる地域の広がりを目安を示したもので、実際は予測よりも大きな揺れになることがある。



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線モデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

地震調査研究推進本部
「九州地域の活断層の長期評価（第一版）」で新たに評価対象となった活断層で発生する地震の予測震度分布（簡便法計算結果）より

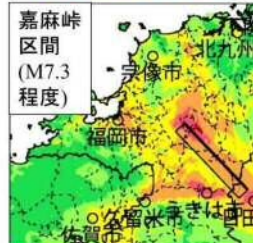
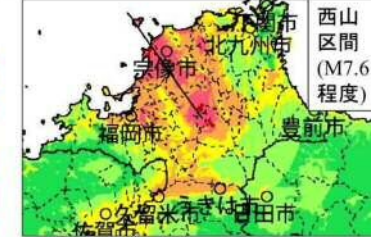
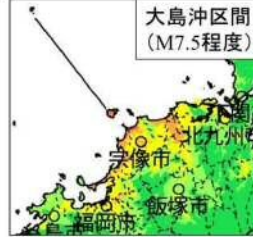
- ・実際の揺れは、予測されたものよりも1～2ランク程度大きくなる場合があります。
- ・特に活断層の近傍などの震度6弱の場所においても、震度6強以上の揺れになることがあります。

「令和5年度防災気象連絡会資料」（福岡管区気象台）

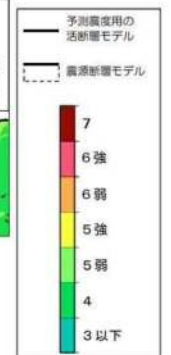
福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

西山断層帯の地震による予測震度分布（簡便法）

強い揺れになる地域の広がりを目安を示したもので、実際は予測よりも大きな揺れになることがある。



複数区間が同時に活動する場合の地震の規模 M7.9～8.2程度



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線モデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

地震調査研究推進本部
「九州地域の活断層の長期評価（第一版）」で新たに評価対象となった活断層で発生する地震の予測震度分布（簡便法計算結果）より

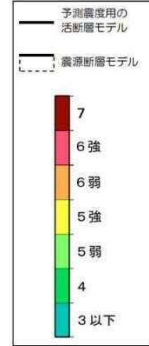
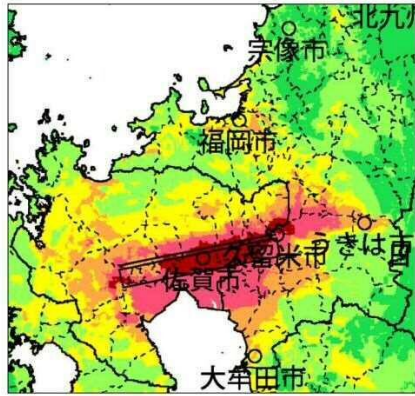
- ・実際の揺れは、予測されたものよりも1～2ランク程度大きくなる場合があります。
- ・特に活断層の近傍などの震度6弱の場所においても、震度6強以上の揺れになることがあります。

「令和5年度防災気象連絡会資料」（福岡管区気象台）

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

佐賀平野北縁断層帯の地震(M7.5程度)による 予測震度分布 (簡便法)

強い揺れになる地域の広がりの目安を示したもので、実際は予測よりも大きな揺れになることがある。



活断層モデル：本断層帯の長期評価および地震動予測手法に基づいて地表の断層を直線モデル化したものです。
震源断層モデル：活断層モデルを地表トレースとする断層面上に設定した地震発生域を示しています。

地震調査研究推進本部
「九州地域の活断層の長期評価(第一版)」で新たに評価対象となった活断層で発生する地震の予測震度分布(簡便法計算結果)より

- ・実際の揺れは、予測されたものよりも1～2ランク程度大きくなる場合があります。
- ・特に活断層の近傍などの震度6弱の場所においても、震度6強以上の揺れになることがあります。

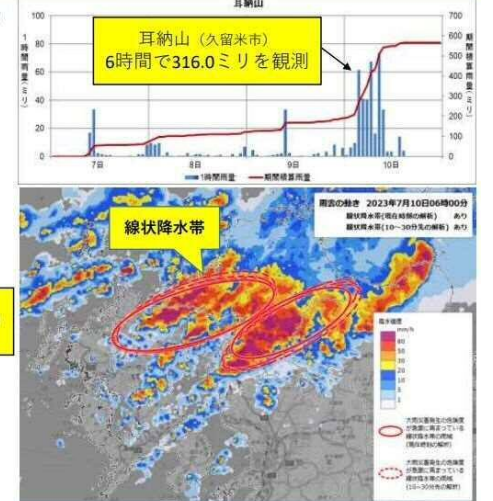
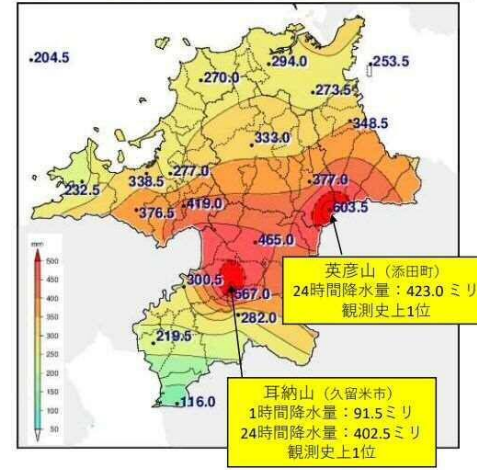
「令和5年度防災気象連絡会資料」(福岡管区気象台)

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

令和5年7月7日からの大雨の状況

- 筑豊地方や筑後地方を中心に記録的な大雨を観測、福岡県では2年振りとなる「大雨特別警報」が発表された(特別警報発表対象：添田町、久留米市、八女市、うきは市、朝倉市、東峰村)
- 耳納山(久留米市)では、1時間、24時間降水量の観測史上1位を更新
英彦山(添田町)では、24時間降水量の観測史上1位を更新

アメダス総降水量の分布図(7月7日～7月10日)



降り始め(7月7日01時)からの降水量

黄色：7月の平年以上

	降り始めからの降水量(mm) 7月7日01時から10日15時までの速報値	7月平年値 (mm)	7月平年値との 比率(%)	2023年の顕著な大雨に関する 気象情報の発表状況		
				情報発表時分	号数	府県予報区 一次細分区域
福岡地方	早良脳山(早良区)	376.5	441.0	85	2023 7 10 03 09	1 福岡県 福岡地方
	太宰府(太宰府市)	419.0	359.0	117		
	福岡(中央区)	338.5	299.1	113		
	博多(博多区)	277.0	351.0	79		
	前原(糸島市)	232.5	294.1	79		
	宗像(宗像市)	270.0	302.4	89		
北九州地方	小呂島(西区)	204.5	平年値なし	平年値なし	2023 7 10 04 50	2 福岡県 福岡地方、筑豊地方、筑後地方
	東谷(小倉南区)	273.5	410.7	67		
	行橋(行橋市)	348.5	343.5	101		
	空港北町(小倉南区)	253.5	337.1	75		
筑豊地方	八幡(八幡西区)	294.0	314.6	93	2023 7 10 05 20	3 福岡県 福岡地方、北九州地方、筑豊地方、筑後地方
	英彦山(添田町)	603.5	476.3	127		
	添田(添田町)	377.0	364.4	104		
筑後地方	飯塚(飯塚市)	333.0	347.1	96	2023 7 10 08 20	2 大分県 北部、西部
	大牟田(大牟田市)	116.0	394.6	29		
	黒木(八女市)	282.0	414.3	68		
	久留米(久留米市)	300.5	376.3	80		
	耳納山(久留米市)	567.0	417.8	136		
	柳川(柳川市)	219.5	360.9	61		
朝倉(朝倉市)	465.0	413.2	113	2023 7 10 08 29	4 福岡県 北九州地方、筑豊地方、筑後地方	

令和5年7月7日からの大雨に伴う 住家の家屋被害状況

7月7日からの大雨に関する情報(第36報・最終報)(令和5年8月14日)

	全壊	半壊	一部損壊	床上浸水	床下浸水
久留米市	20件	328件	525件	902件	1,545件
うきは市		50件		40件	400件
朝倉市	2件	19件	52件	44件	
那珂川市	1件		3件	2件	59件
東峰村	3件	3件	27件	16件	17件
広川町	4件	76件		64件	107件
その他市町村	2件	4件	18件	61件	183件
合計	32件	480件	625件	1,129件	2,311件
【参考】 H29九州北部豪雨災害 (第173報)平成29年6月1日	287件	822件	39件	22件	598件

※10市町村に災害救助法が適用(久留米市、八女市、筑後市、うきは市、朝倉市、那珂川市、筑前町、東峰村、広川町、添田町)
【参考】平成29年九州北部豪雨災害では3市町村(朝倉市、東峰村、添田町)に災害救助法が適用

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

自然災害別の状況の違い

	地震	水害 (内水氾濫)	土砂災害
被災エリア	広い	限定的	限定的
避難所開設期間	長期	短期	長期
ボランティア活動期間	長期	短期	長期
被災者のニーズ	多様	一様	多様
主なニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・家屋の片付け ・家財の運び出し ・引っ越しの支援 ・避難所支援 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・家財の運び出し ・家屋の泥だし 等 	<ul style="list-style-type: none"> ・家屋の泥だし ・家財の運び出し ・家屋の片付け 等

⇒都市部か山間部かでも状況は大きく変わる。
地域の状況に応じて、被災者の困りごとは
多種多様に変わっていく。

地震

○ 地震が起きると・・・

- 落下物** ▶ 外壁や窓ガラスが割れて落下したり、古いビルや家屋が崩れるなどの可能性があります。
- 津波** ▶ 強い揺れや弱くても長い揺れの場合は、津波が発生する可能性があります。
- 電話** ▶ 通話が集中したり、通信設備が被災するなど、電話やインターネットができなくなったり、つながりにくくなります。
- 道路** ▶ 道路に人や車が集中し、大渋滞が発生することが予想されます。郊外では土砂崩れなどによって、道路の寸断が発生します。
- 電車** ▶ 線路の寸断、安全確認に時間がかかるなどの理由で、相当な時間、電車が動かない場合があります。
- ライフライン** ▶ 停電、ガスの停止、水道の断水が起こり、復旧まで時間がかかる場合があります。

「災害に備える民生委員・児童委員活動に関する指針」
(全国民生委員児童委員連合会)

豪雨・台風

- ▶ 険しい山や急流が多い日本では、前線による大雨や台風によって、道路や低地の浸水、川の氾濫、かけ崩れ、地すべり、土石流などが発生しやすい環境にあります。
- ▶ 近年では、短時間に狭い範囲で非常に激しく降る雨(いわゆるゲリラ豪雨)が頻発しており、宅地開発がすすんだ都市部では、川の急激な増水が生じたり、道路や住宅の浸水などが発生しています。
- ▶ 雨で増水した川や田んぼを見に行き流されてしまったり、浸水した道路で側溝の境界が見えにくいために転落する事故も発生しています。

○ 豪雨・台風が近づいているときは・・・

- ▶ 川の氾濫や土砂災害などは一気に起こるため、避難が遅れると命にかかります。天候が荒れてからでは移動も困難になるため、早期の避難をこころがけましょう。
- ▶ 夜間や大雨がひどい場合は、避難行動には慎重な判断が必要です。
- ▶ 暴風、暴雨などで、避難場所までの移動が困難な場合は、家の中でも、河川や崖から離れた2階の部屋で待機したり、近隣のできるだけ頑丈な建物に避難してください。

「災害に備える民生委員・児童委員活動に関する指針」
(全国民生委員児童委員連合会)

日本の避難所は、難民キャンプ以下

『スフィア基準』

(地域紛争による難民問題に対応するために作られた国際基準)

- ・避難所の居住空間は最低限一人当たり3.5平方メートル
- ・適切なプライバシーと安全が確保され、覆いがある
- ・最適な快適温度、換気と保護を提供する
- ・トイレの数は男女比で1:3を推奨
(女性は生理や排泄の仕方の違いで時間がかかるため)
- ・トイレ1つにつき最大20名(初期は50名)
等の基準に達しない日本の避難所

⇒基準以下だと、脱水症状、熱中症、感染症、
生活不活発病(エコノミー症候群)等につながる



「被災する」ということ

物理的な側面

- ・家屋や家財の損害
- ・インフラの破壊

精神的な側面

- ・恐怖や不安
- ・喪失感や寂寥感

社会関係の側面

- ・家族や地域の断絶
- ・社会とのかかわり

肉体的な側面

- ・けがや体調の悪化
- ・生活習慣の乱れ

経済的な側面

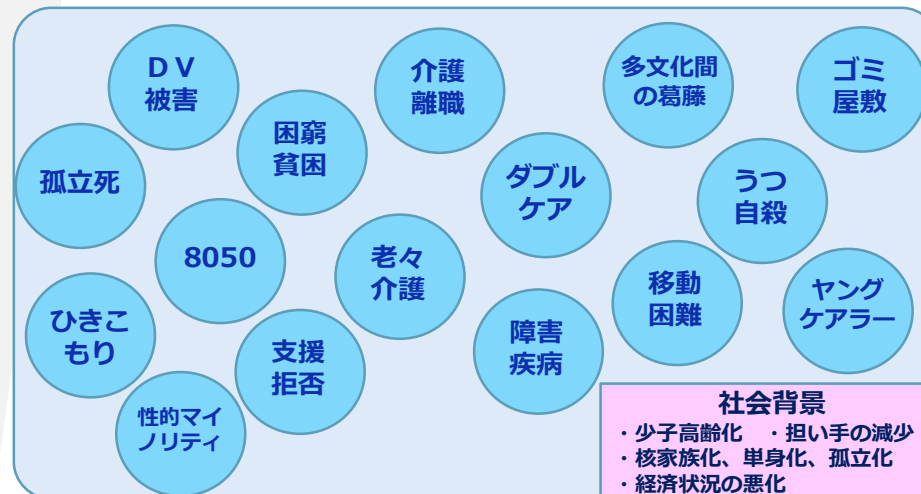
- ・収入の減少や途絶
- ・生活費・復旧費用の増大

情報に関する側面

- ・社会制度の情報
- ・申請や契約

これらが相互に関連し、被災者に影響を与えてしまう
 例) 精神的な不安から体調を崩す
 例) 故郷の喪失感や経済的な苦しさから自死を選ぶ
 例) 情報が得られないため、支援から取り残される

地域には、災害前から困りごとを抱える人もいます。



普段見えにくかった問題が見えてきたり、より重くなったり、災害由来の困りごとと複合したりする。

災害時には、災害由来の困りごとが一気に増え、平時に困ってなかった人も困ってしまう。

例えば・・・

避難所が遠い/避難所に入れない/車中泊をする場所がない/暑い/寒い/狭い/衛生状態が悪い/プライバシーがない/トイレが汚い/避難所が砂っぽい/家が壊れた/家の中がぐちゃぐちゃ/家が泥まみれ/自営のお店が再開できない/ビニールハウスが倒壊した/作物がダメになった/倉庫が崩れた/お金や通帳を紛失した/病院に行けない/薬が切れた/ペットがいるから避難できない/透析に行きたい/日本語が理解できないので情報が伝わらない/耳が悪いので物資の配給のタイミングがわからない/車が水没して移動手段がない/携帯が充電できない/インフラの不通で何もできない/子供の遊び場がない/子どもがうるさい/不安で夜寝れない・・・など

災害によって、困りごとの現れ方が違う。
 その人の状況によっても、困りごとは違う。

避難所が「生活」する場所になると・・・

発災時に、避難生活支援が不十分だと「関連死」に繋がってしまう。
 「関連死」の状況を見ると、高齢者や障害者の割合が高くなっている。

例) 東日本大震災：災害関連死者数3,767名
 ⇒高齢者（66歳以上）の割合
 岩手県86.1%、宮城県87.0%、福島県89.8%
 ⇒障害者の割合24.6%（上記高齢者との重複あり）

熊本地震：死亡273名（直接死50名、災害関連死223名）
 ⇒災害関連死の8割以上は、70歳以上の高齢者

⇒避難所での「生活」を支える生活支援の役割が重要になってくる。

熊本地震「平成28（2016）年熊本地震等に係る被害状況について【第311報】」
 復興庁「東日本大震災における震災関連死の死者数（令和2年9月30日現在調査結果）」
 共同通信アンケート「2020年3月1日」

被災者心理と支援の受け入れ

感情

自主独立の思い

『自分のことは自分でなくては』

プライバシー

『家の中を見られたくない』

遠慮・恐縮

『自分よりもっと大変な人がいるのに』

『こんな大変な仕事させて申し訳ない』

不安感・不信任感・不明

『お願いして大丈夫な人なの』

『何をしてもらったらいいの』

『どこに相談したらいいの』

理性

『自分たちだけで再建は難しい』

「災害ボランティアセンター設置運営訓練 講師資料」

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

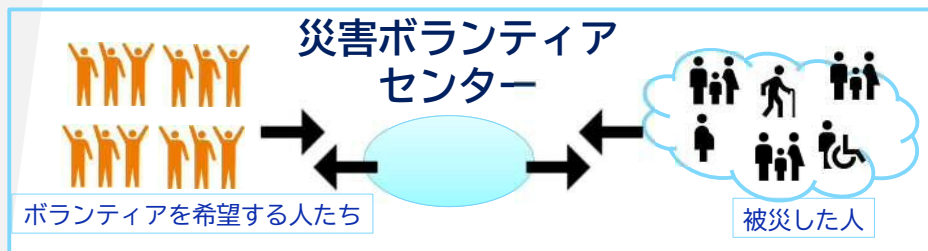
2 被災者を支援するボランティア活動

～社会福祉協議会の役割と災害ボランティアセンター～

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

災害ボランティアセンターとは

- 被災者の生活再建を目的に、ボランティアの力をつなげるしくみ
- 多くのボランティアの気持ちを受け止め、安全・スムーズに被災者のニーズ（困りごと）につなぐ



災害ボランティアセンター運営の3つの原則

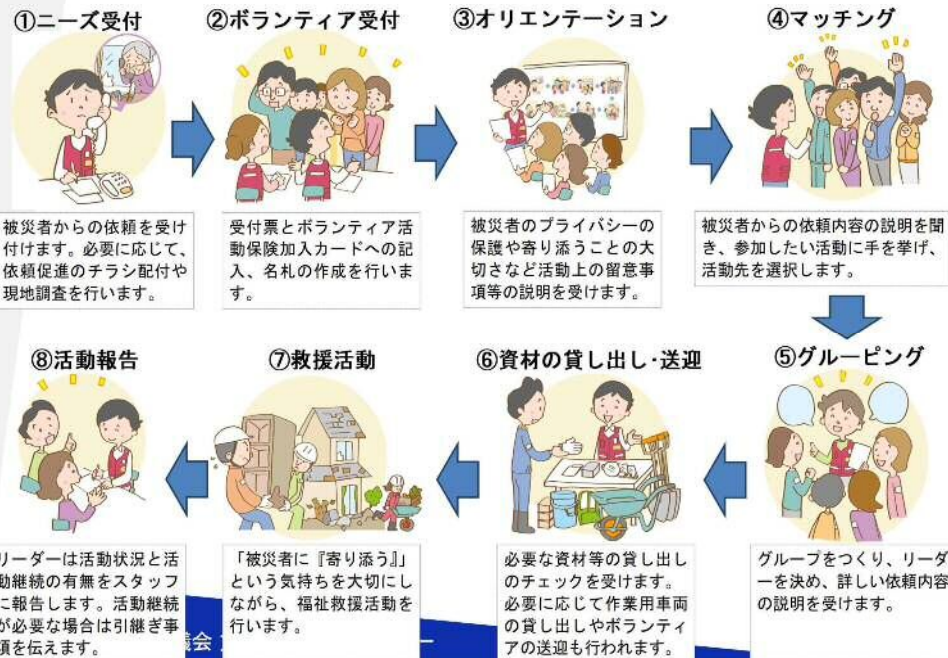
被災者中心

地元主体

協働

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

災害ボランティアセンターの流れ



近年の県内災害 V C 設置状況等

年度	災害	市町村	V O 参加者数
H 2 9 年度	平成 2 9 年 7 月九州北部豪雨災害	朝倉市	4 5, 2 9 2
		東峰村	8, 2 3 8
		添田町	8 2 9
		合 計	5 4, 3 5 9
H 3 0 年度	平成 3 0 年 7 月豪雨災害	久留米市	8 9 8
		飯塚市	3 2 6
		嘉麻市※	7 5 5
		合 計	1, 9 7 9
R 1 年度	8 月 2 7 日からの大雨	筑後市	1 9 7
R 2 年度	7 月 5 日からの大雨	大牟田市	1, 1 9 7
		久留米市	4 0 5
		合 計	1, 6 0 2
R 3 年度	8 月 1 1 日からの大雨	久留米市	3 7 7

※嘉麻市の V O 参加者数は、1 日に 1 人のボランティアが 2 件活動した場合、2 人としてカウントしている。

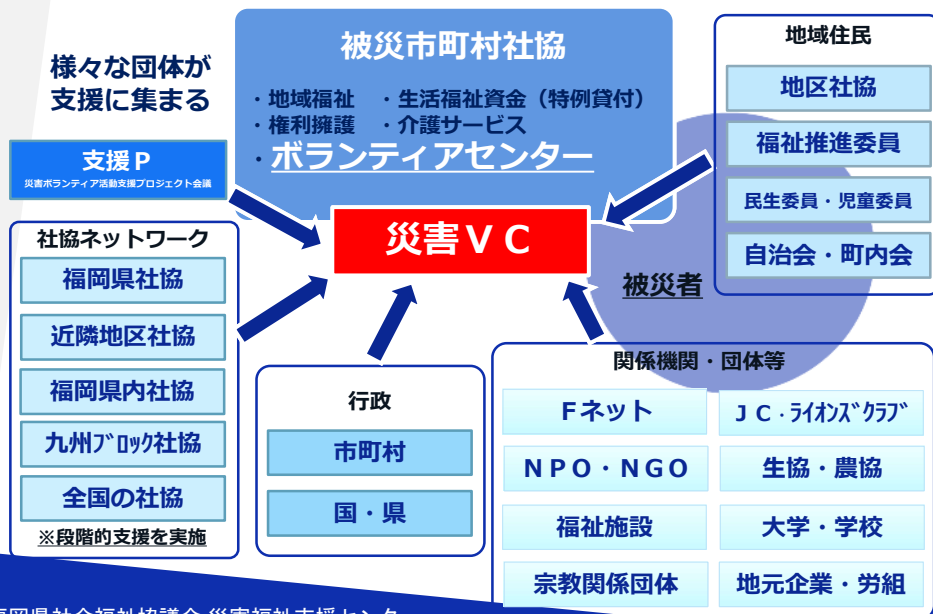
令和 5 年 7 月 7 日からの大雨に伴う 災害ボランティアセンターの状況

令和 5 年 1 0 月 3 1 日現在

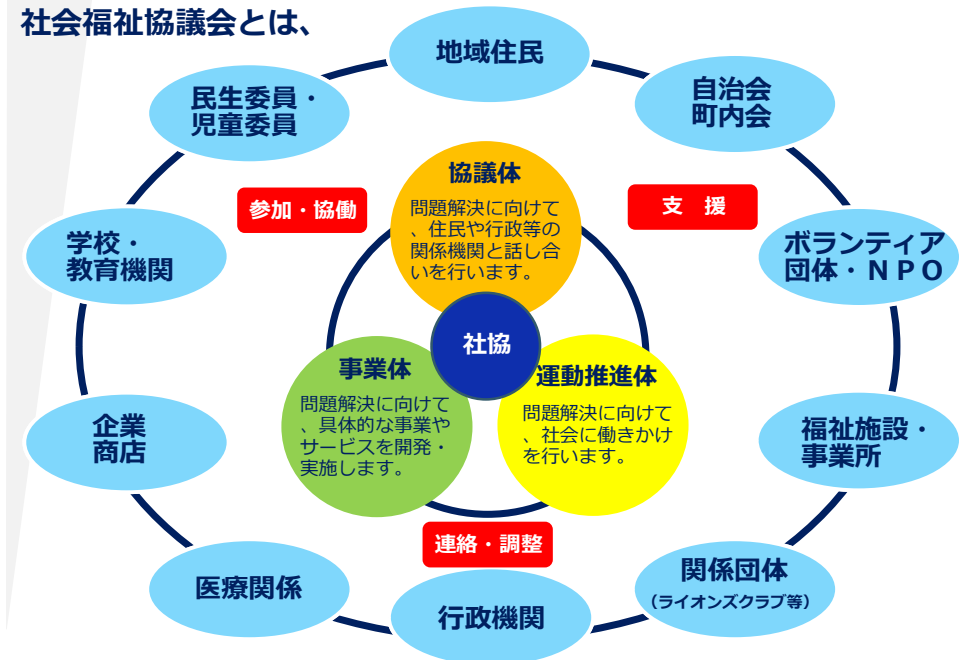
	開設日	閉所日	総活動件数	総ボランティア数
久留米市	7 月 1 1 日 (火)	1 0 月 3 1 日 (火)	9 7 5 件	7, 9 7 7 名
うきは市	7 月 1 2 日 (水)	8 月 1 0 日 (木)	2 1 0 件	7 1 0 名
朝倉市	7 月 1 0 日 (月)	9 月 3 0 日 (土)	9 6 件	6 1 0 名
那珂川市	7 月 1 1 日 (火)	8 月 1 日 (火)	2 2 件	1 5 3 人
東峰村	7 月 1 3 日 (木)	9 月 3 0 日 (土)	8 1 件	5 6 4 名
広川町	7 月 1 2 日 (水)	9 月 1 0 日 (日)	1 9 8 件	1, 3 7 2 名
合 計			1, 5 8 2 件	1 1, 3 8 6 名
【参考】 H 2 9 九州北部豪雨災害			1, 7 8 1 件	5 4, 3 5 9 名

※北九州市、八女市、小郡市、大刀洗町は通常のボランティアセンターで被災者の支援を実施
※数字は暫定値のため、変更する場合があります

災害ボランティアセンターの運営



社会福祉協議会とは、



地域の様々な団体と協力し、地域の社会課題を解決する組織です！

社会的孤独・孤立



例えば、こんな社会課題に対応しています！

不登校・引きこもり



子どもの貧困



生活困窮



買い物弱者



困りごとの相談



防災・災害支援



福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

社協が災害ボランティアセンターを運営する理由

- 地域を基礎に活動を展開
 - 日常的に住民と接している（地縁組織と顔の見える関係）
 - センター閉所後も本来的機能で被災者の生活の支援と被災地の復興支援を継続（生活支援相談員による支援など）
- 地域福祉を推進する団体としての機能・事業
 - ほとんどの社協に「ボランティアセンター」機能がある
 - 福祉の相談機関・福祉サービスをとおして要支援者を把握
 - 地域の生活課題を把握し、解決する機能を有している
 - 行政や幅広い機関・団体と関係を構築している
 - 民間としての機動力がある
- 全国的なネットワークを有する組織
 - すべての自治体に存在する
 - 全国的なネットワークを有している 等

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

3 多様な主体が連携した被災者支援活動の必要性

被災者の多様なニーズ

復旧ニーズ

- ・ 家屋内外の片づけ、家財の移動、泥出し など

生活・福祉ニーズ

- ・ 衣・食・住、要援護者対応 など

情報ニーズ

- ・ 連絡、生活、支援情報 など

精神的ニーズ

- ・ 心のケア、傾聴 など

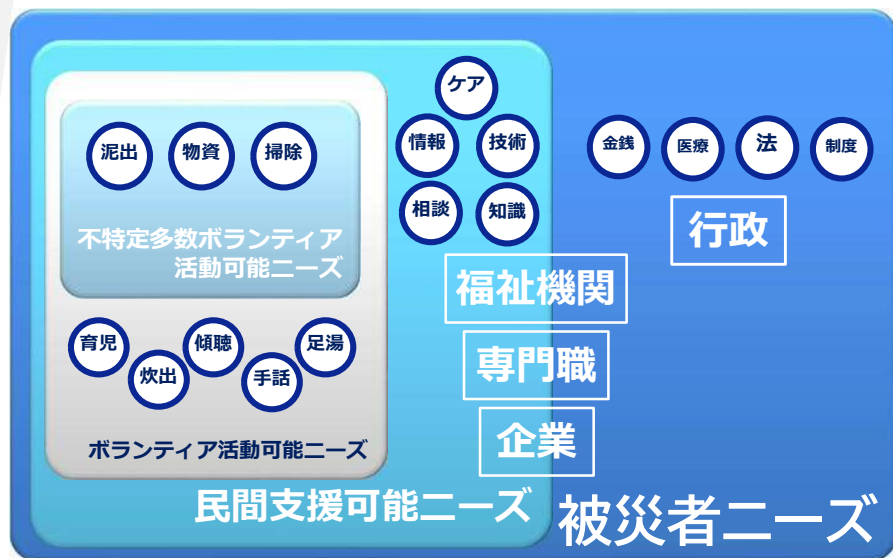
地域・集団ニーズ

- ・ 避難所の運営・ルール作り、公共スペース など

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

被災者ニーズと支援者



「災害ボランティアセンター設置運営訓練 講師資料」

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

災害ボランティア活動は多種多様



左上：災害ボランティアセンターでの広報支援
(東峰村・平成29年7月九州北部豪雨災害)

左下：災害ボランティアセンターでの運営支援
(久留米市・令和2年7月5日からの大雨)

右上：被災地での炊き出し
(朝倉市・平成29年7月九州北部豪雨災害)

出典：広島文教大学

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

日常的なつながりを活かす

例

平時	災害時
町内会、老人クラブ（サロン活動、声かけ） 民生・児童委員（要配慮者の把握、見守り）	ニーズ把握（要配慮者含む）
子ども食堂（居場所／食事提供）	炊き出し、ニーズ把握
移送サービス（要配慮者や道路状況把握）	送り出し、要配慮者のニーズ把握
弁護士会（制度理解/相談活動）	情報提供、法律相談
保健所、福祉部局等（個別訪問、制度理解等）	ニーズ把握、情報提供、制度相談等

⇒ 普段の活動が、そのまま災害時にも活かされる！

「災害ボランティアセンター マネジメント研修 講師資料」
(R4 全国社会福祉協議会)

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

一般ボランティア・NPO等による支援事例

分野	一般ボランティア(災害VC)	NPO・NGO等
被災家屋	(ニーズ把握) 土砂出し、家財出し、片づけ・清掃	重機での土砂等、床・壁・屋根の応急措置 廃棄物の分別・回収、住宅再建の相談・講習会
避難所		アセスメント、物資、環境整備、炊出し、 サロン傾聴、ジェンダー的配慮、ペット、運営
在宅避難者	災害VCでの対応範囲は限られていることが多い	実態把握調査 物資、家電、食事
仮設住宅	しかし、 災害VCには住民から多様なニーズが寄せられる	引越し、物資・家電、集会場、 公民館への備品、サロン、見守り支援
生業支援		農地からの土砂・廃棄物等撤去 商店街の片づけ・清掃、資機材
要配慮者	災害VCで対応できないニーズをどうつなぐかも重要な役割	福祉施設への支援、相談支援・資金支援 こどもの居場所・学習支援、学用品など、 翻訳・通訳

多様なニーズ

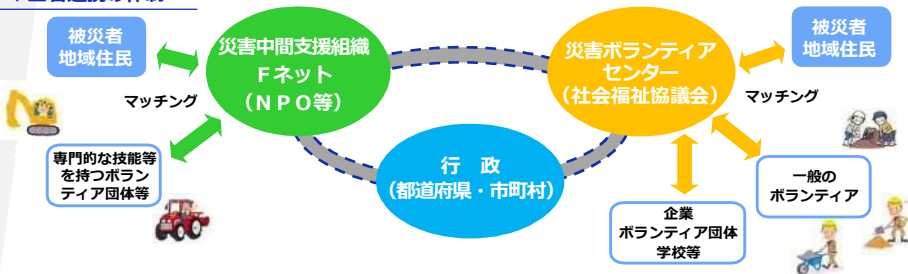
多様な支援

災害VCの限界 ≠ 被災者支援の限界
そのためにも、多様な主体との連携が必要

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

行政・社会福祉協議会・NPO等による三者連携の姿

◆三者連携の体制



平時：関係者と意見交換するなど、日頃から顔の見える関係を構築
 発災時：「情報共有会議」を開催し、被害状況の把握、被災者支援の情報共有等を行うなどの取組を実施

◆ボランティアの種類

種類	ボランティアの参加者	主なボランティア活動
一般のボランティア	社会人や大学生、高校生、サークル活動（ほか）	被災家屋の泥かき、家財道具の搬出、清掃等
企業・団体・学校等のボランティア	企業の従業員、団体の所属者、学校の教職員・学生	物品・車輛・技術等の提供、貸与 広報の支援 災害V.Cの運営の支援
専門的な技能等を持つボランティア団体等	NPO団体、企業、土業関係（ほか）	ブルーシート張り、畳の消毒、重機を使用した災害ごみ撤去、トラックによる輸送等

企業・団体・学校等の強みを活かした支援例

団体でのボランティア活動	・従業員等に参加を募り、団体でボランティア活動
専門的な技能等を持つ職員等によるボランティア活動	・避難所での読み聞かせ、炊き出し等の生活支援活動 ・専門性等を活かした、一般のVOで対応できない活動 ※重機を利用した活動、屋根へのブルーシート張り、倒木や樹木の対応、ブロック塀の破碎等
災害V.Cの運営協力（技術の提供・職員等の派遣）	・看護師や看護系の学生の協力 ・相談支援の経験がある方や学生の協力 ・ICT、広報等に長けた総務スタッフの協力 ・弁護士、建築士、技術者等、企業に所属する専門スタッフの技術提供
物品・サービス・場所等の提供・貸与	・VO活動で活用する資機材の提供・貸与 ・VO用に飲料や自社製品等の提供 ・VO向けのサービス（入浴や食事の割引等）の提供 ・被災者宅を訪問する際に活用できる物品の提供 ・被災者が必要とするサービス等の提供 ・資機材置き場、駐車場、災害V.Cの場所を提供
車輛・運転手の提供・貸与	・ボランティア送迎車両、軽トラック・ダンプ等の提供 ・運転ボランティアの協力
広報の協力	・SNSでの公式情報をシェア ・企業の広報媒体でボランティア募集情報等を発信

社会福祉協議会が期待する各団体の強み



福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

第五回 令和2年7月以降被災者のための住まい生活再建無料相談会

住まい生活 再建無料相談会

新しい暮らしの仕組み「リバース・モーゲージ」
 住みかえの仕組みが、希望をだれに相談しよう？
 家計の見直しが必要になった
 借入額が多額で、どこに相談したらいいかわからない
 お困り事や悩み事に専門家がアドバイスします。相談は無料です。事前に申し込みください。

令和4年 会場：えるる2階小・中研修室（大牟田市新栄町6番地1）
 時間：13時～16時半
 予約先：大牟田市地域支え合いセンター
 (TEL) 070-7665-4963 (平日9時～16時受付)
 (申込受付日) 12/5(月)16時受付

相談会 13:00～16:30

※相談内容をおおきく、右記の時間帯で予約をお受けします。

参加者からの感想

- ・丁寧に手帳ごとと不動産の仕組みを載せて頂きました。教える頂きました。
- ・より具体的なアドバイスと金利と数字（金額）を教えて頂きました。
- ・分かりやすい説明でした。

福岡県司法書士会

主催：大牟田市地域支え合いセンター（大牟田市社会福祉協議会内） 共催：大牟田市
 大牟田市瓦町9-3（総合福祉センター内） (TEL) 070-7665-4963
 受付時間 月曜～金曜 午前9時～午後4時（土・日・祭・年末年始を除く）

令和2年7月以降被災者のための住まい生活再建無料相談会

各専門家のご紹介と、相談内容の例

新しい暮らしの仕組み「リバース・モーゲージ」
 住みかえの仕組みが、希望をだれに相談しよう？
 家計の見直しが必要になった
 借入額が多額で、どこに相談したらいいかわからない

住宅金融支援機構 (公社)福岡県建築士会 (公社)福岡県宅地建物取引業協会 県南支部

大牟田ライフサポートセンター/居住支援協議会

福岡県弁護士会

暮らしの近くで、元気なうちからの関係づくり・・・
 ◎大牟田にある「地域福祉支援センター」
 ◎あなたの住んでいる地域の暮らし「民生委員さん」「福祉委員さん」
 ◎飲食店、公園、コンビニなどの関係

大牟田市福祉課/地域支え合いセンター

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

このたびの震災で被害に遭われた皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。

ボランティア募集のお願い

災害ごみ撤去のボランティアを募集しています。



◆お申込み・お問い合わせは、志賀町社会福祉協議会
志賀町災害ボランティアセンター
 〒925-0141 志賀町高浜町の1番地1(文化ホール右字裏)
 受付：平日9時～17時(土日祝日を除く) ☎090-6879-9756
 軽トラボランティア受付 ☎080-6879-9756

◆ボランティア作業を依頼されたい方は
 ☎090-7957-6653 ☎090-8261-1021
 受付：平日9:00～15:00(土日祝日を除く)



元広報マンの民生委員 が、災害VCのチラシ 作成に協力

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

【事例⑦】各生協による支援事例 各生協による被災地支援活動 (平成30年7月豪雨)



グリーンコープ生協ひろしまの「生活応援セット」



生協移動販売車を利用する住民(呉市安浦地区)



受付応援スタッフ



ボランティアに説明する生協運営スタッフ



全国から集まった生協職員と組合員(オリエンテーションの様子)



ボランティアの方に飲み物を提供する看護師

「広島県生活協同組合連合会 C.COM 2018.11月号」

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

広島県社会福祉協議会資料

平成30年7月豪雨災害での多様な団体支援

No	支援内容	団体数(延べ)	割合
1	資機材の提供・貸与	136	34.4%
2	飲料・食料の提供	88	22.3%
3	活動ニーズの把握	50	12.7%
4	事務所・駐車場敷地の貸出	22	5.6%
5	車両の提供・貸与	21	5.3%
6	災害VCの運営支援	20	5.1%
7	重機対応	15	3.8%
8	ボランティア活動の協力	13	3.3%
9	避難所等の支援	12	3.0%
10	床板はがし対応	9	2.3%
11	イベント・レク等	4	1.0%
12	炊き出し支援	3	0.8%
13	センター立ち上げ指導	1	0.3%
14	床下の消毒	1	0.3%
	合計	395	100.0%

広島県社会福祉協議会資料

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

【事例⑩】当事者団体によるVC活動 広島県ろうあ連盟による支え合いの取り組み (平成30年7月豪雨災害)

【西日本豪雨】聴覚障害者もボランティアに「耳きこえなくても支援できる」

「広島県ろうあ連盟」が運営するボランティアセンターが参加者を募り、坂町などの被災地で活動を始めた。「私たちが復興の力になりたい」。参加者は被災者と手話でコミュニケーションをとりながら、片付けや土砂のかき出しを精力的に行っている。同居する両親は聴覚障害があり、県ろうあ連盟の会員。連盟は復旧を手助けしようと、手話が使えぬ会員らをボランティアとして派遣。



会員らにメールを送って参加者を募集。一方で、手話通訳者を手配して同伴させることで、会員と支援を受ける被災者が円滑にコミュニケーションを取れるように心がけた。

連盟の会員は約700人。SNSも活用して募集するなど、これまで延べ50人以上の会員がボランティアに参加したという。

産経WEST 2018/7/30

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

広島県社会福祉協議会資料

【事例⑪】 当事者団体によるVC活動
飲食店マイクロバスによるボランティア送迎 (平成30年7月豪雨災害)

営業時間の合間に、飲食店所有のマイクロバスによりボランティアの送迎に協力 (坂町助け合いセンター)



福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

広島県社会福祉協議会資料

【事例⑮】 行政との協働事例
災害VC×行政の協働 (平成30年7月豪雨災害)

- (1) 災害対策本部との連携による情報共有
 - ・災害対策本部に窓口担当者がおり円滑に情報共有・連携ができた。
 - ・毎日、災害対策本部と保健師、社協で連絡調整会議を設け情報を共有した。
 - ・災害対策本部に参画して情報を共有した。
- (2) 被害情報・ニーズ把握の連携
 - ・行政からの被害状況の情報連絡により、ニーズ調査や確認に役立った。
 - ・行政への問い合わせがあった一覧を提供いただけただけで、職員がどこへニーズ把握に行くかが明確となった。
 - ・市の土砂撤去班と一緒に現地を回り、ボランティアが取り出した土砂を速やかに撤去してもらえるよう連携した。
- (3) 被災者へのアウトリーチ支援での協働
 - ・被災世帯へ毎回厚生部 (保健師) と戸別訪問し情報を共有できた。
 - ・心配な世帯の情報も随時共有でき、早くから被災者の生活支援を実施できた。
 - ・被災者宅の訪問時にVCのチラシ配布や、依頼を社協へ取り次いでもらえた。
- (4) 物資・会場確保・駐車場確保等
 - ・足りない飲料や資機材・物資を災害対策本部から提供していただいた。
 - ・センター開設場所、車両・駐車場、仮設トイレ、資機材などの手配協力を得た。
 - ・駐車場確保について行政機関 (公園・学校) 以外の、民間企業へも打診してくれた。
 - ・災害ゴミ集積場の開設状況、搬入に関しての情報が連携できた。

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

広島県社会福祉協議会資料

青年会議所との連携

- ・日本青年会議所 (JCI)のもと、10地区 (ブロック)、47都道府県、684青年会議所 (ROM)で構成。約32,400名の会員の業種は多岐にわたる
- ・大規模災害発生時は、JCIのもとで全国の会員が協力、被災地のJCIに活動資金提供と人的、物的支援を実施する仕組みを構築
- ・2018年に全社協とJCIが災害時支援協定を締結。全国で協定締結を推進。(現在340の社協が災害時協定を締結)

【機動力とネットワーク】

- ・更地に災害VCを設置、水道、電気、通信、整地、コンテナハウス設置等をJCの協力で実施。資機材調達でも協力を得て短期間で準備できた
- ・山間地のランチへの資機材搬送やボランティア送迎にJCが車両とドライバーを調整。迅速な支援活動が展開できた

(R2 熊本・八代市)

【会員の専門性と技術】

- ・廃止された町病院の建物を利用して災害VCを設置。電源がないため、隣の建物から約30Mを延長コードで電源を確保
- ・電源回復の手続と工事に数週間かかるとされるところ、JCの会員企業の協力により3日後に開通した

(R3 佐賀・大町町)

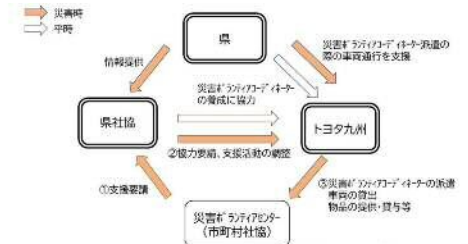
「災害ボランティアセンター マネジメント研修 講師資料」

(R4 全国社会福祉協議会)

福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

トヨタ自動車九州との協定

令和6年5月13日に福岡県、トヨタ自動車九州、福岡県社会福祉協議会の三者で、災害ボランティアセンターの運営支援に関する協定を締結しました。



福岡県社会福祉協議会 災害福祉支援センター

他にも・・・

温泉施設	・被災者やボランティアにお風呂を解放
飲食店	・被災者への炊き出し ・ボランティアで活動した方への割引サービス ・打ち上げの一部が義援金になるメニューの企画
パソコン教室	・買い替えで古くなったタブレットを寄贈
通信会社	・電話、タブレット、モバイルWi-Fi等の貸与
福祉施設	・送迎用車両の貸与と運転ボランティア
バス会社 整備会社 自動車学校	・送迎車両、軽トラックの提供、貸与
リサイクルショップ	・動くけど売り物にならない家電を被災者に提供
スーパー・魚屋	・氷の提供
学生	・初めてのボランティア活動をSNSで発信
多数の企業	・ボランティア向けに飲料や食品の提供 ・タオル、資機材等の提供 ・企業ノベルティの提供 ・支援金の贈呈

下記3要素に当てはまる方（できれば複数）は、災害ボランティアセンターのスタッフとしてぜひ協力をお願いしたい人材です

● 地域性

地理を知っている、地名を知っている、人を知っている、人に知られている、地域につてがある

● 専門性

福祉の専門性（相談対応・制度知識・コーディネート力）
リーダーシップ、フォロワーシップ、安全衛生、物品管理

● 継続性

毎日参加できる、土日なら参加できる、朝だけならだいたい手伝える
空いている日があればしばらくは手伝える、

災害ボランティアセンターの1日の流れ

	8:00	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00
総務班											
総務・会計											
広報・情報											
救護・巡回											
ニーズ受付班											
ケアラiy受付班											
ケアラyサポート班											
マッチング班											
資機材・車両班											
資機材											
車両											

■ : 繁忙時間 ■ : 少人数で対応可能な時間

繋がりは、平時の内に深めていく



状況変化が大きい災害時には、無理かもしれないと思いつつ『ask』することが有効

ご清聴ありがとうございました。

※福岡県内の被災地の状況や被災者支援活動の情報は
福岡県社協災害救援本部のFacebookで発信します。



いいね！して、
最新情報をチェック！